竜王西小学校　学校関係者評価書

令和８年２月１６日（月）
（竜王西小学校）学校関係者評価委員会作成

第１回　学校関係者評価委員会

実施日：令和８年２月１３日（金）午後３時３０分～

会　場：竜王西小学校学習室

参加者：（学校関係者評価委員）

学校運営協議会委員：高相治夫　植松章子　功刀妙子

ＰＴＡ会長：庄田有希　ＰＴＡ副会長：星由美　深澤陽子　小松郷

（学校側）校長：内藤賢　教頭：小林恵子　教務主任：丹下博喜

Ⅰ　学校側から提案された内容

〇教職員自己評価アンケートと考察（保護者アンケート･児童アンケートも含む）

〇課題改善に向けた今後の取組

Ⅱ　協議された主な内容

〇読書活動　〇将来の夢について　〇ICT の活用について

〇生活習慣について　〇評価の観点について　〇PTA 活動について

＜学校関係者評価書＞

Ⅰ　全体評価

〇 教職員，児童，保護者それぞれの学校評価アンケート結果を総合的に見ると，本校の教育活動および学校運営は，概ね良好に進められていると評価できる。三者共通して，学校が安心して学び，生活できる場として機能していることが認識されており，学校全体として安定した基盤の上に教育活動が展開されていることがうかがえる。

〇 教職員の自己評価からは，学校経営や学校運営の方針が一定程度共有され，組織的な取組が進められていることが明らかとなった。また，日々の教育活動について，改善を意識しながら取り組もうとする姿勢が見られ，学校としての継続的な成長が期待される。

〇 児童の評価からは，学校生活に対する安心感や満足感が得られており，学習や行事，人間関係に前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。これは，教職員の指導や支援が児童の実感として伝わっていることを示しており,本校の教育活動の成果の一つであると捉えることができる。

〇 保護者の評価からは，学校への信頼感や，児童の安全・生活面に対する取組への一定の評価が読み取れる。一方で，学校の取組や教育の成果について，より分かりやすい情報発信を求める声も見られ，家庭との連携を一層深めていく必要性が示唆された。

Ⅱ 特　徴

◆学校経営および学校運営に関しては，教職員自己評価の肯定的回答が 100%になっており，今年度の学校教育目標および重点目標に基づく取組は，概ね計画どおり進められていると評価できる。教職員の勤務環境や健康管理への配慮については，一定の評価が得られている。

◆ICT や教材を活用した授業づくりが，児童の学習意欲の向上につながっていると感じている教職員が多い。一方で「ICT を効果的に活用した授業を行っている。」は肯定評価が 79.2%になっており，教職員がもっと効果的に使いたい，児童の学力を向上させるにはどのように活用したらよいのかといった質にこだわった活用にシフトしてきた様子がうかがえる。

◆学習全般で見てみると教職員，児童，保護者との回答に大きな開きはなく，達成状況は良好であると言える。しかしながら，児童アンケートの「授業（勉強）でわからないことがあったら先生に聞いていますか。」「人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。」に関しては，肯定評価が 75%で，改善に向けての継続的な取組が必要である。

◆生徒指導についても，基本的な生活習慣の定着や安心して学校生活を送るための指導が継続的に行われ，学校全体で対応しようとする姿勢が定着しつつあると考えられる。保護者アンケートの「学校は子ども達の間違った行動などに対して，指導していると思う。」が 95%の肯定評価になっていることからも，保護者や関係機関と連携した生徒指導が行われているとの認識が見られる。

◆児童アンケート「困ったことがあったら相談できる先生がいますか。」の肯定評価は 73%，教職員自己評価「あなたは，児童理解のためにコミュニケーションを図っている。（対：児童）」の肯定評価は 97%になっており，大きな開きがある。日頃からの児童理解をさらに深め，児童とのコミュニケーションを図り，児童の実態や心情に配慮した指導を心がけていく必要がある。

◆地域連携に関する取組については，本校ならではの教育活動として一定の達成が認められる。特に，地域との協働や特色ある教育活動を通して，児童生徒の学びや成長につなげようとする取組が継続されてきた点や外部講師を活用した教育活動が進められている点が評価できる。また，地域や保護者との連携を意識した教育活動が行われているとの認識が見られる。

◆保護者アンケートからは「学校だよりホームページなどから教育活動の内容を知ることができる」「学校は情報公開に力を入れていると思う」「学校は保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。」の項目は全て高評価であり，保護者が好意的に捉えていると見ることができる。

◆本校ならではの教育活動や取組について，一定の理解と評価が得られている様子がうかがえるが，学校の特色がどのような点にあるのかについて，教職員間での認識に差が見られる可能性があり，特色をより明確に共有していく必要がある。挨拶に関する項目は，三者とも肯定評価が高く良好であると捉えられるが，学校外でも場に応じた挨拶ができるような取組は継続していく必要がある。

◆創甲斐教育の基本理念と基本目標を踏まえた教育活動が日常の教育実践の中で意識され，児童の主体性や協働性を育もうとする取組が進められている。「協働的な学びを取り入れた授業や児童がコミュニケーション力を生かし学び合えるような指導に努めている。」については今年度校内研究でも取り組み，肯定評価が 93%，児童アンケート「友達とコミュニケーションを取りながら活動することは楽しいですか」も 95%となっておりコミュニケーション力が養われてきていることが推測される。

◆「児童が積極的に読書活動に取り組むよう，指導に努めていますか。」の肯定評価は，教職員と保護者との間に大きな開きがある。図書室を利用する，手の届くところに本を置くといった取組の他に，学校生活の隙間時間で本と親しむ時間を設定するなどの工夫を積み重ねていく。家読などの取組を強化し，家庭での読書時間も増えていくような取組を継続させていく。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

○ PTA 活動の参加を問う設問は 61%と低かった。改組 1 年目で，専門部もなくなり，「参加しているか」という設問では肯定的回答が低くなってしまうのかもしれないが，逆に 6 割の保護者が参加しているというとらえ方もでき，非常に主体的な活動になっていたと思われる。

○ ICT の活用は「使うこと」から「どのように活用すればよいか」にシフトしてきており，子ども達の反応・効果が具体的にとらえられる場面を，教職員が明確に描きながら指導をしていく必要性がある。どこまで ICT を使い，どこで自分の能力を使っていくか考える必要がある。その視点を失ってしまうと ICT を使えば楽に短時間でできてしまうので，将来どうなるのかという不安を感じる。

○ 読書活動をどうとらえるか，教職員，児童，保護者の認識がそろうとよい。文章をじっくりと読む力は身についてほしい。読書が好きではない児童もいると思うので，しおりづくりや読書くじなどの図書委員会の取組が読書のきっかけになると思われる。図書室に行くことが好きな児童が多いが，学校生活の中で読書の時間を設定したり，家庭での読書を啓蒙したりする取組を視野に入れていく。

○「将来の夢=職業」という捉えではなく，「○○してみたい」といった広い意味での豊かな夢が，揶揄されることなく認められるような学校教育であってほしい。大人にも，子供に職業観を求めすぎず広い意味で夢を受け止める姿勢が必要だと思われる。

○朝食をしっかりと食べてきている，しっかりと睡眠時間もとれているということが見て取れたことが素晴らしく，今後も学校生活の土台とある家庭での生活が整えていけるといいと思う。

○今年度から設問の内容が各校独自のものになっている。「字を丁寧に書くようにしていますか」といった教育のベースとして大切にしていくべきものがあるのはとても良い。きちんと書くようにしているというのが感じ取れた。一方でアンケート結果から分析しにくい設問もあったため，今後の竜王西小学校の教育活動の向上を目指し，評価すべき観点を明確にした質問内容や項目にしていくとよい。西小として何を大事にしていくかということを意識した質問になることをめざしていく。

※特記事項

- **今年度も学校運営協議会後に学校関係者評価委員会を開催した。学校運営協議会で 1 年間の教育活動について協議し，その上で学校評価についての話し合いを行った。短時間ではあったが，焦点が絞られた意見交換ができ，来年度へ向けての方向性を確認することができた。**
- **学校運営協議会委員と PTA 役員とが意見交換でき，とても有意義な会であった。**

記載責任者（竜王西小学校　学校関係者評価委員）　氏名：　庄田有希